



蘭の柯の典
 新研策子
 編者曲亭畫師北齋
 第一ノ卷
 節操全傳
 芝屋三勝赤振半七



特別
~13
3148
1



原是何等物非阮還非琵琶

曲亭馬琴著

三七

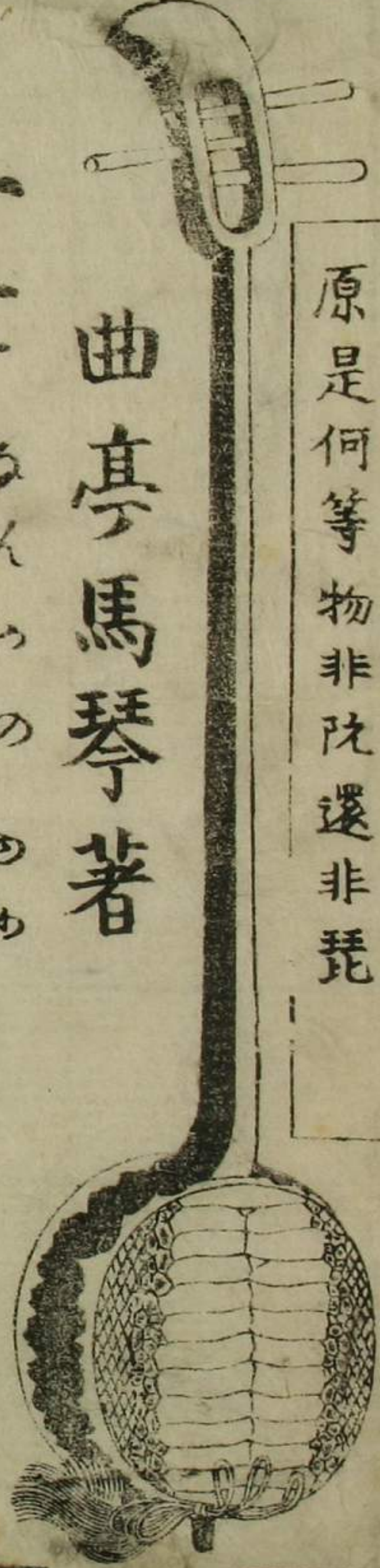
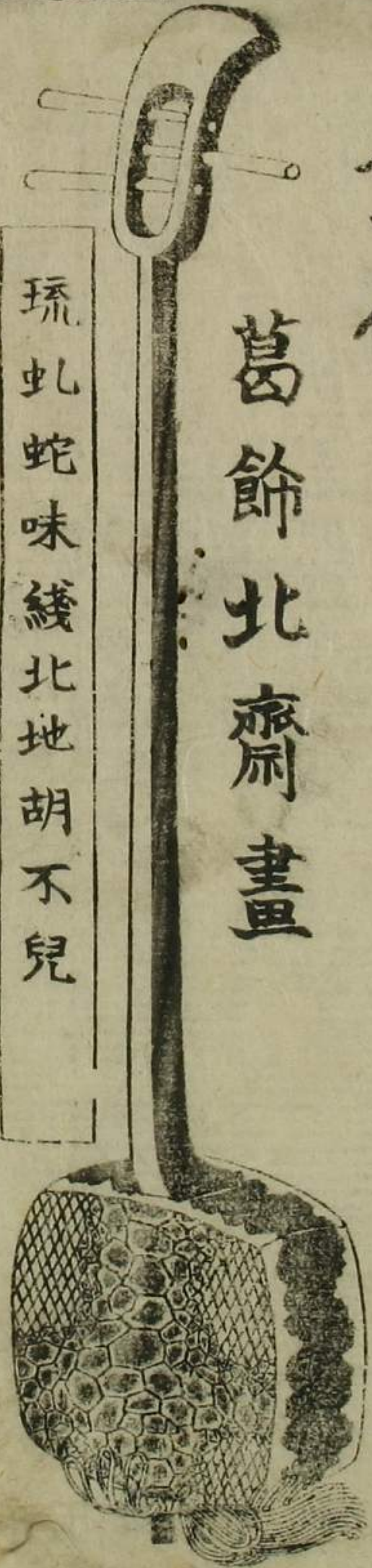
全傳

南柯夢

葛飾北齋畫

琉虬蛇味綫北地胡不兒

全七冊



浮于琴

淳于棼家廣陵。宅南有古槐。生豪飲其下。因醉

致疾。二友扶生歸。夢一玄衣使者曰。槐安國王

奉邀。生隨二使上車。指古槐入一穴中。大城朱

門。題曰大槐安國。有一騎。傳呼曰駙馬遠降。引

生升廣殿。見一人衣素練服朱華冠。令生拜王。

王曰。前賢尊命。許令女瑤芳奉事君子。有僊姬

數十。奉樂執燭引導。金翠步障。珍瓏不斷。至一

門。號金儀宮。一女子號金枝公主。儼若神僊。交

驩成禮。情禮日洽。王曰。吾南柯郡。政事不理。屈

13
3148
1-17



浮于琴

卿爲守。勅有司出金玉錦綉。僕妾車馬。施列廡。衛。餞公主行。夫人戒子曰。淳于郎性剛好酒。爲婦之道。貴在柔順。爾善事之。生累日至郡。有官吏僧道。音樂來迎。下車省風俗。察疾苦。郡中大理。凡二十載。百姓立生祠。王賜爵錫邑。位居台輔。生五男二女。榮盛莫比。公主遇疾而薨。生請護喪赴國。王與夫人素服。慟哭於郊。備儀羽葆。鼓吹。葬主於盤龍岡。生以貴戚。威福日盛。有人上表云。玄象譎見。國有大恐。都邑遷徙。宗廟崩壞。事生蕭牆。時議以生僭侈之應。王因命生曰。

卿可暫歸本里。一見親族。諸孫無以爲念。復令二使者送出一穴。遂寤。見家僮擁篲于庭。二客濯足于榻。斜日未隱。西垣餘尊尚湛。東牖因與二客尋古槐下穴。洞然明朗。可容一榻。上土壤爲城。廟臺殿之狀。有蟻數斛。二大蟻素翼朱首。乃槐安國王。又窮一穴。直上南枝。群蟻亦處其中。卽南柯郡也。又一穴盤屈若龍蛇狀。有小墳高尺餘。卽盤龍山岡也。生追想感歎。邊遺掩塞。是夕風雨暴發。旦視其穴。遂失。羣蟻莫知所之。國記有大恐。都邑遷徙。此其驗矣。

右陳翰槐宮記

魏宮記ハ淳于棼が故事ナリ。陳霸當棼が夢ニ嫁シテ榮枯得
 衰ノ理ヲ推ユト。沈既濟が枕中記ニ一般皆是寓言トイヘ氏蒙
 昧ヲ醒スニ足レリ。予モ亦取エトアツテ。三勝半七が奇耦ヲ迹
 ナガサニキセンベンデンナシカノユメイフコトヨ子タニヤマナニナシカ
 名ケテ三七全傳南柯夢ト謂事ハ米谷山ノ楠南柯ニ起ス
 セニチテラナムブツヲハカンダクワウタウクンシイチキヤクヒクニ
 千日寺ノ南无仏ニ畢ル。文辞荒唐ニシテ君子ノ一喙ヲ惹ニ似
 シカレ。正キヨクイホシキヤクニシテ。クワンチマウ。い。一。マキゴト
 然氏艶曲淫奔ノ脚色ヲ借ラズシテ。勸懲ノ微意毎巻ニ
 ソン。ミルモ。利害彼ト此ト如何。因テ數行ヲ巻端ニ
 存ス。閱者ノ利。害。題
 スト云

文化四年丁卯夏孟 飯台 簑笠隱居



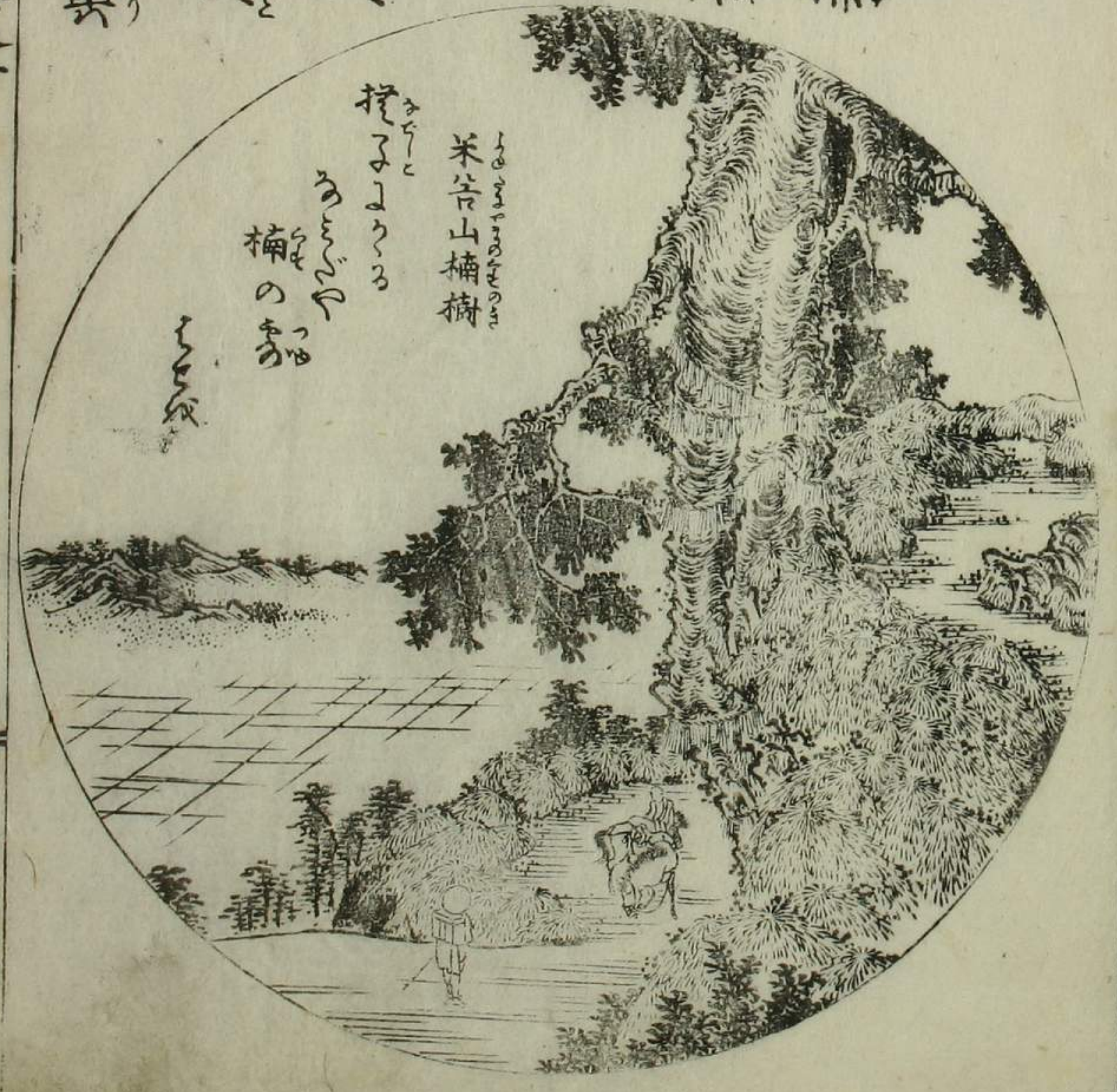
總目錄

卷の一

- 深山路の楠
- 木精の怪異
- 丹波都が傳

卷の二

- 稚児の頻夫
- 檜坂の倭人
- 大柏の權輿



米谷山楠樹
 採子よくる
 楠の影

西河集卷之二

卷の三

臥房の胡越

華洛の僑居

夜輜の驟雨

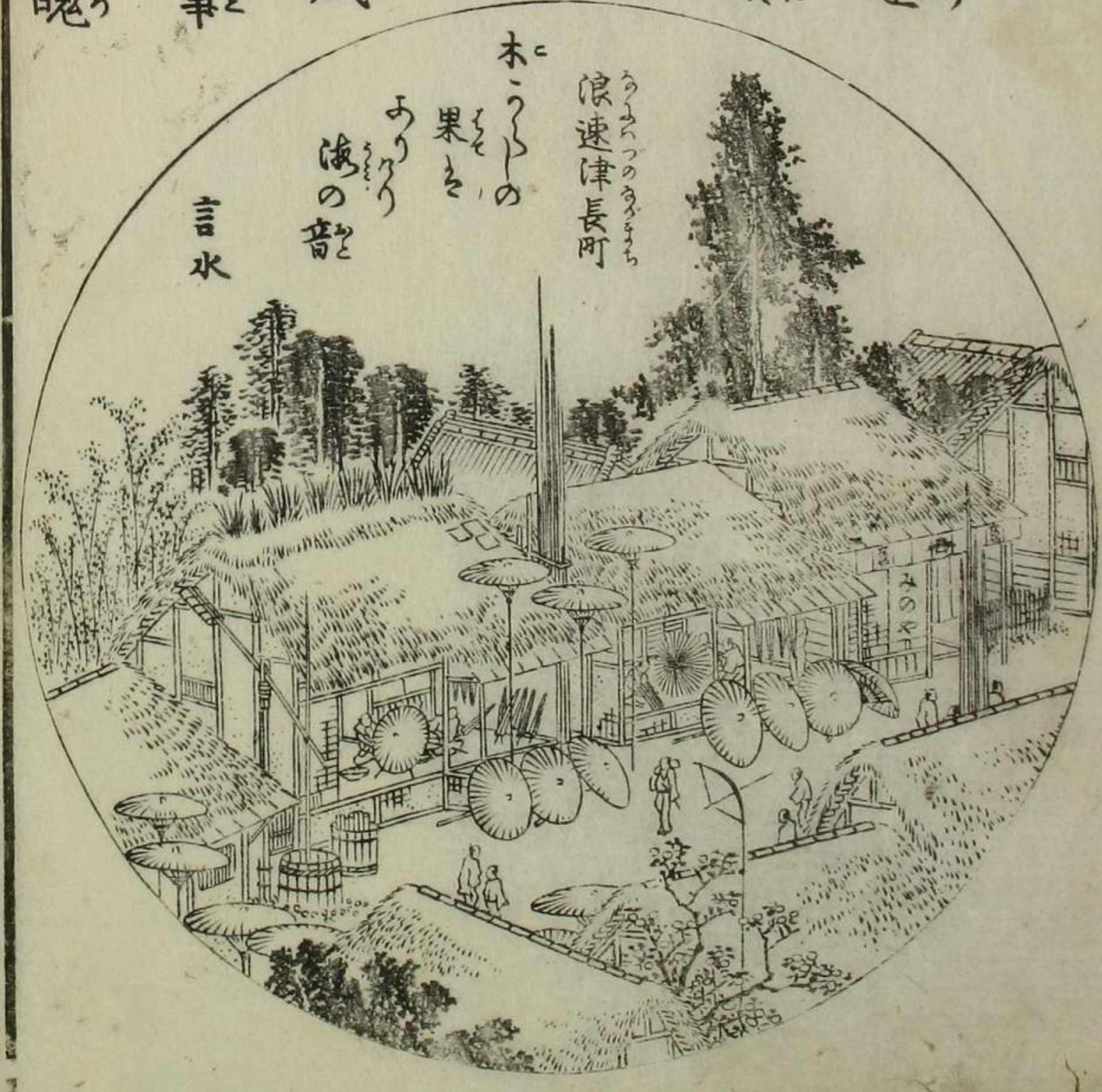
卷の四

真葛が朝風

百度の願事

夜半の月魄

河木夢老二



卷の五

霽後の宿の上

霽後の宿の上

主あは園の元

卷の六

橋下の歌船

長所あかきりの五珠

千日寺せんじつじの証

西河夢老二



孝姑通夜末尾

あね
赤根
羊七



安姫乃每策

あや
屋三
勝



既乃便流既



笠松卒三

逸度依我逸於



赤根羊六

南 夏 陀 羅 以 鷄



敷浪

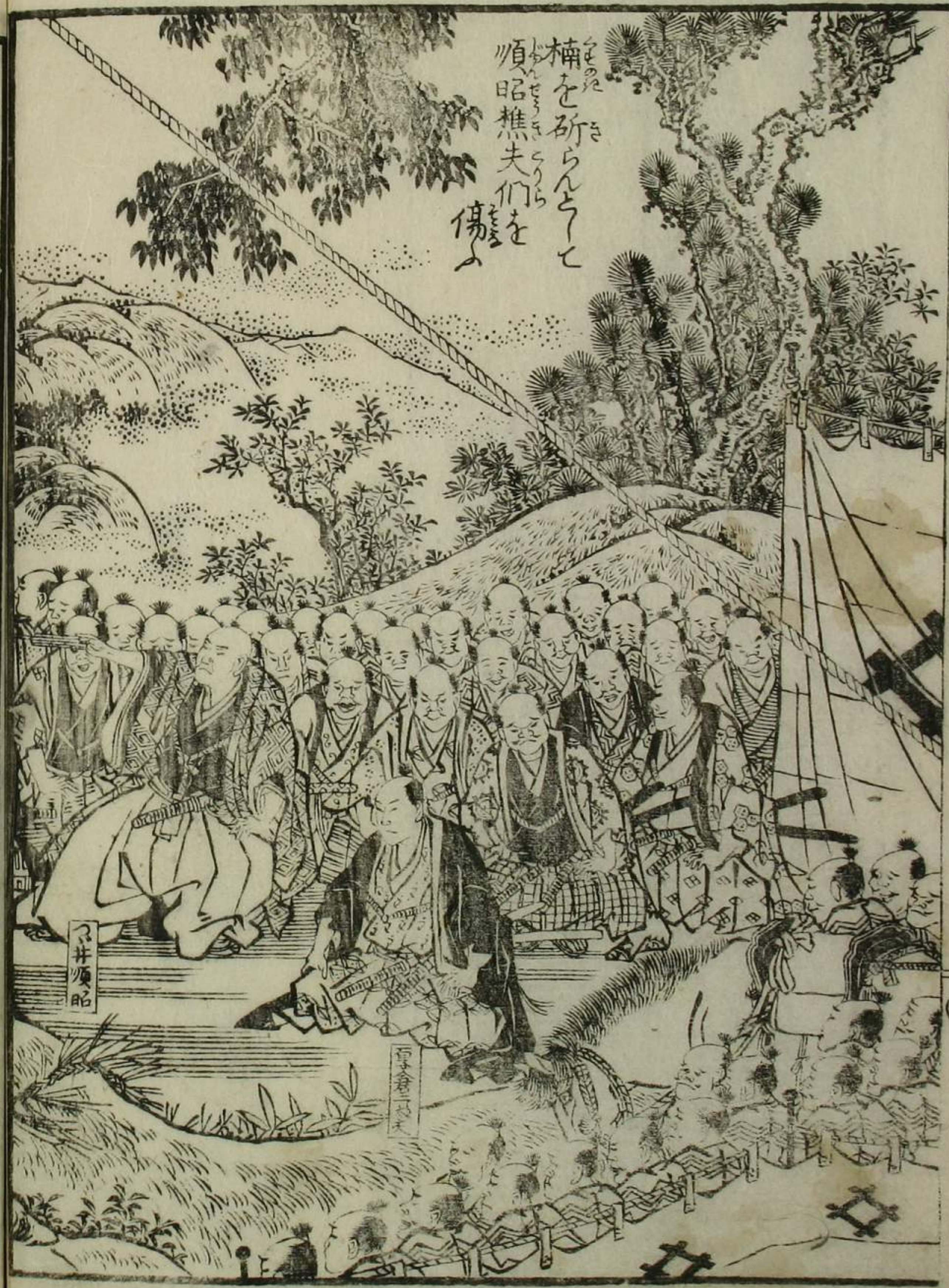
可 多 巴 迺 阿 芝



園花

蓮池鏡湖池九山八海石春日の社又佳直下すゞく寸分も違つど繪圖
 小字さ。既よ吉日をえく。作事を真さんと後どくどく。押金商
 とやえ。一。應永年中の建まうて鹿苑義満公の別荘なり。密の三重
 みて七間の露盤。三尺八寸の鳳凰を戴り。第一重を究竟頂と名
 づけ。廣サ三間四尺八寸。第二重の潮音洞と稱す。東西七間南北五間
 半。岩窟の觀世音と。四天王を安置し。第三重の法水院と名づく。廣サ
 第二重と等しく。こも又觀音勢至を安置り。それらを摸
 くり作り。妙さん。うがた小あぐねど。潮音洞の天井の楠の一枚板
 をのみ。造らむとせしむれば。只の良材のをり。缺く。どつども目を移り。後
 一。順昭頼の焦燥である。日老堂を集會。さても此度茶亭の天井。用
 あらう。楠の得がた。たよ似とんども。當國の連山は。傳の。後耳累て。楠

木森然と。されが往昔より。杉木推つる山兎ホが。斧を入る。目いられ
 ど。山のあふより。ゆともええと。人もあふね。谷蔭まどよ。生らう。く。ん
 楠の。を。求る。ほど。る。も。究。る。う。と。い。ひ。が。は。羽。ま。う。り。駈。の。樵。夫。を。り。く。
 残る。櫻。ま。く。素。さ。せ。よ。う。と。仰。り。り。と。の。と。は。蟻。松。典。膳。豊。度。と。呼。ぶ。老
 臣。列。を。ま。く。ま。う。ん。す。當。國。添。上。郡。米。谷。の。山。向。の。伊。賀。より。通。り。順。路
 ろ。が。彼。山。の。半。腹。より。街。道。を。南。の。く。木。垂。る。楠。の。大。木。あり。どの。枝
 東南へ。さ。り。ま。う。と。大。約。八。九。十。丈。の。餘。り。樹。の。下。常。に。圍。り。て。旅。客。昏。も
 路。よ。ま。心。り。り。の。楠。を。挽。り。あ。つ。か。四。面。五。七。間。あ。る。板。と。ま。せ。べ。こ。ま
 う。と。ま。順。昭。あ。う。く。後。び。て。筑。紫。厚。り。陸。奥。の。果。あ。ど。ふ。あり。と。い。ふ。ど。系。は
 ぬ。も。あ。う。ん。よ。か。る。良。財。の。ま。か。知。る。山。より。出。る。と。い。ふ。う。う。う。う。う。う。辛。を
 ま。ま。と。て。曩。より。呼。え。ざ。り。り。と。く。く。の。楠。を。伐。ま。べ。り。と。仰。す。う。り。



楠を斫らんとて
順昭樵夫們を
傷ふ

井順昭

百倉

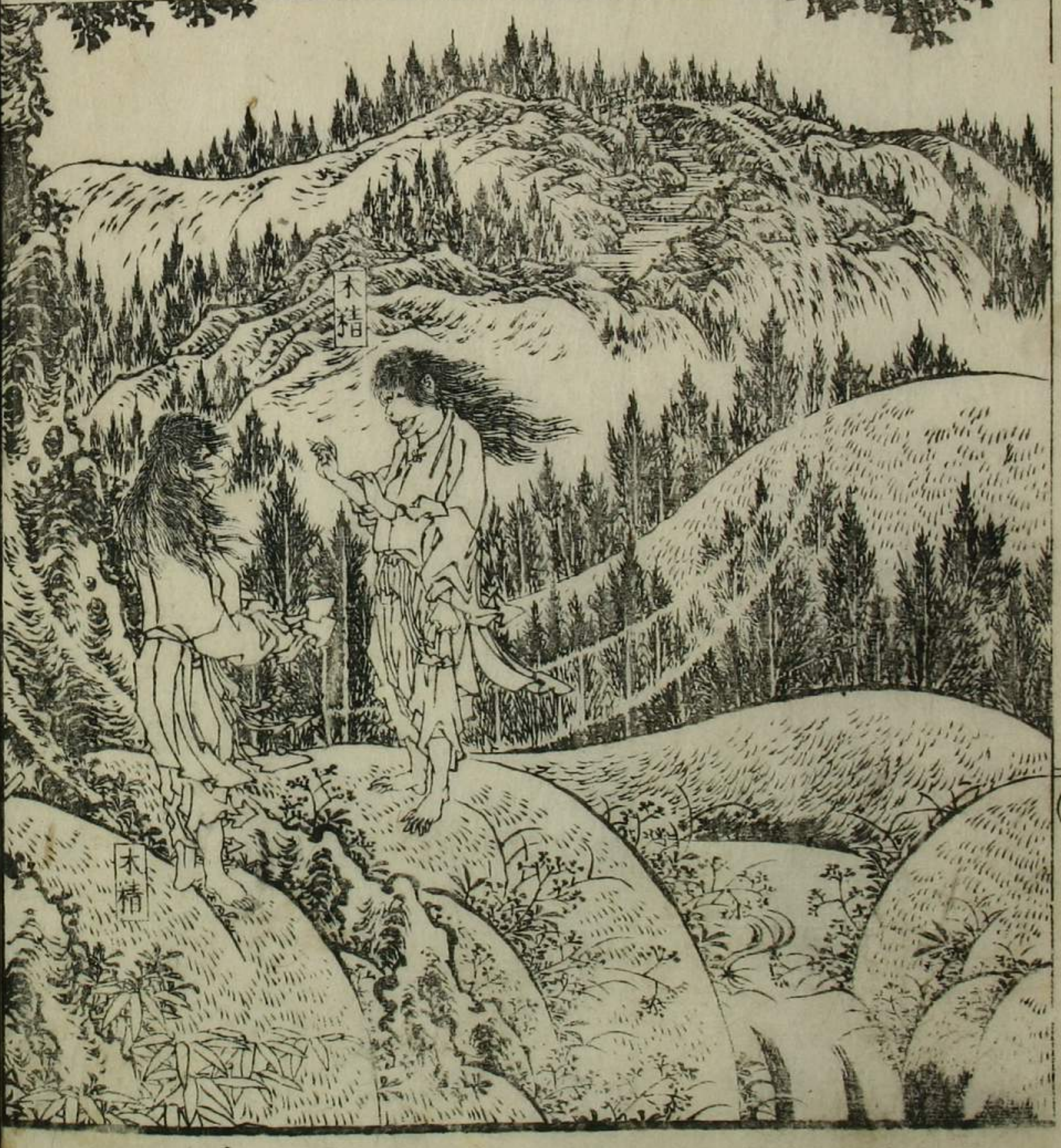
其二



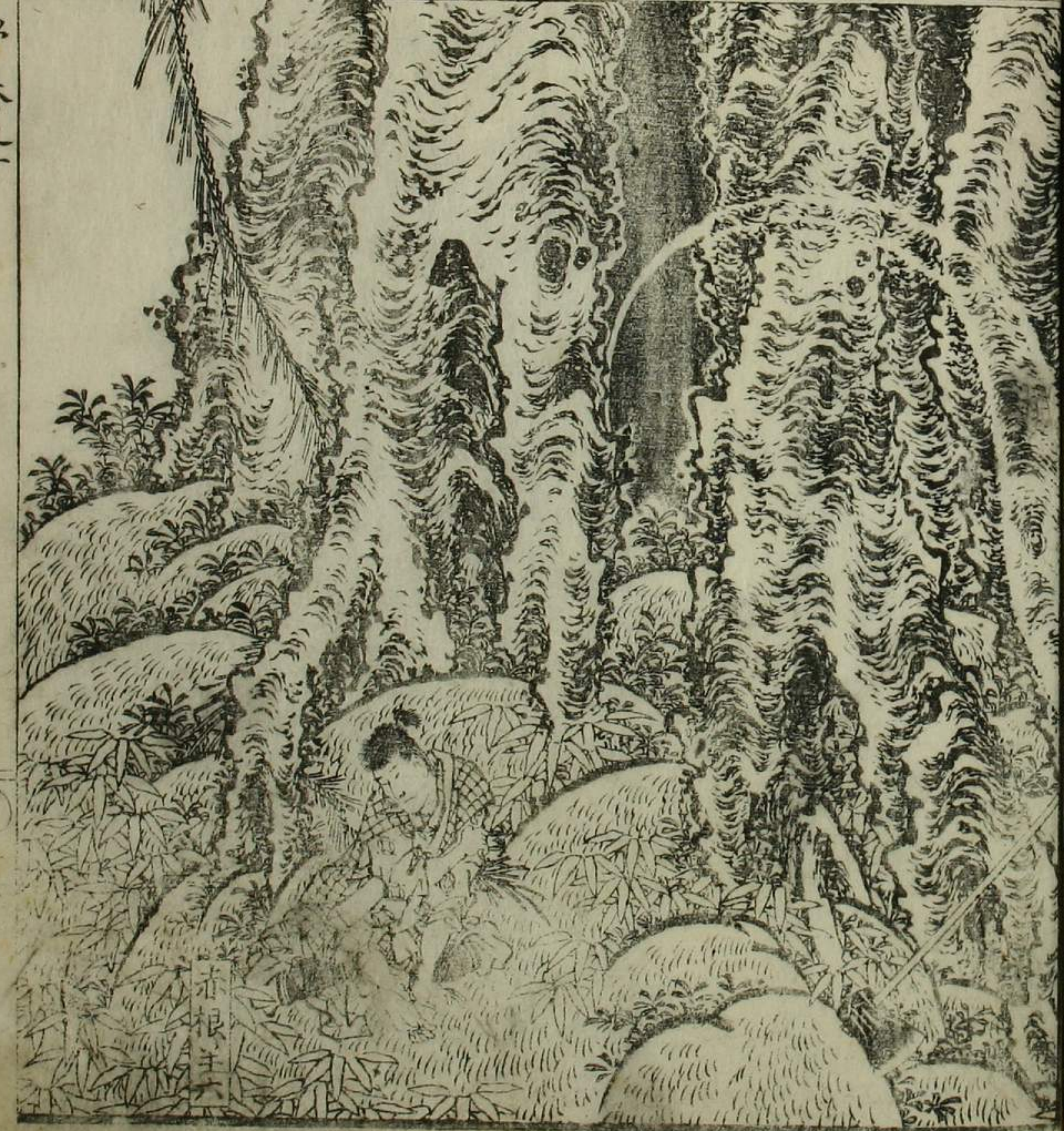
南村漫筆卷一

米谷山小羊六
木精を認る圖

按ずる小法苑珠林
卷第五十八小自澤
圖を引て云木之精
を彭候と名く状異
狗の如く尾は又千
載の木をその中虫
あり名けく賈誼と
り。狀脈の如くほて
り。頭あり。草にてこれを
食ハ狗の肉の味の如

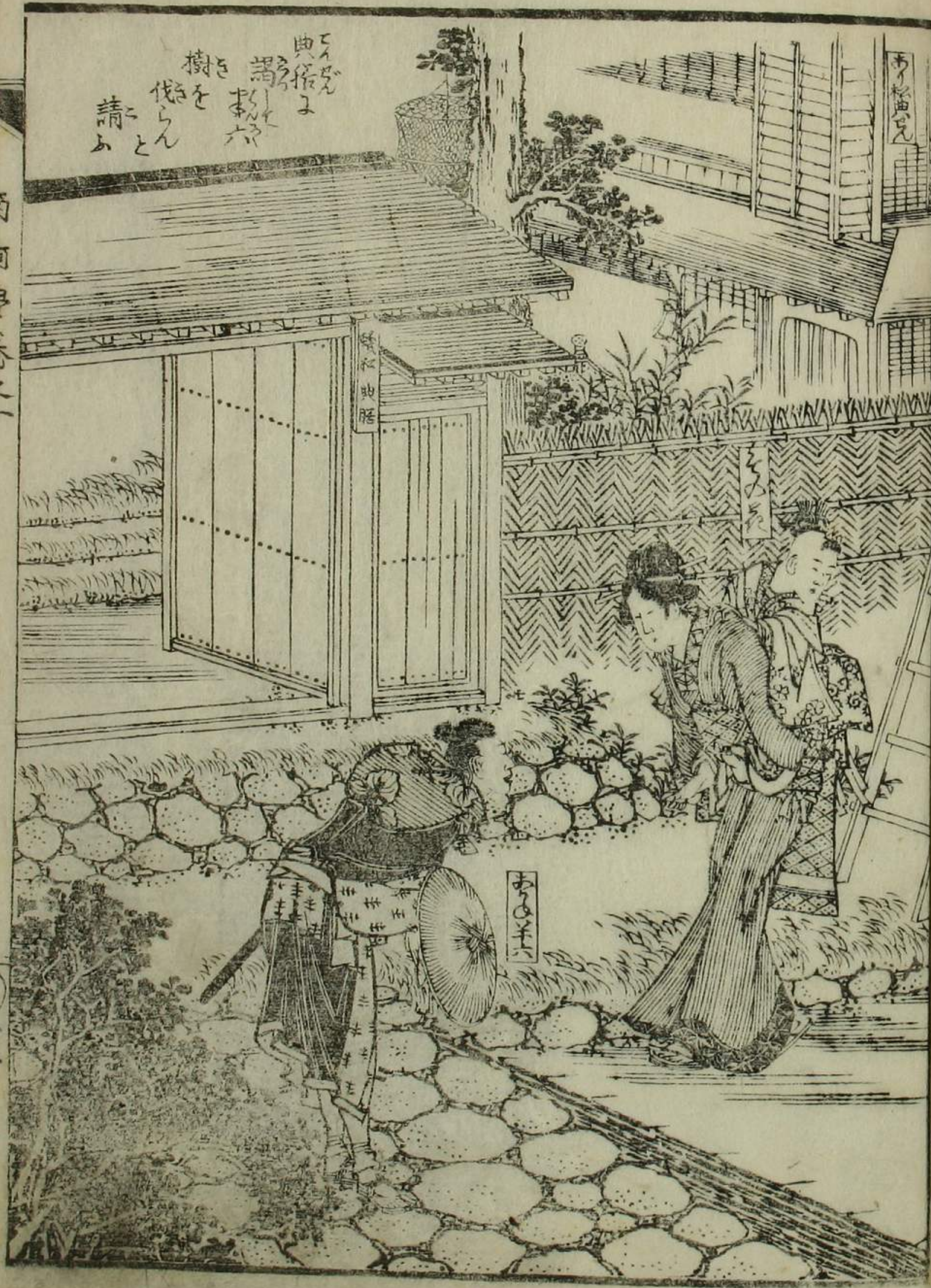


又上小山林あり。小
川泉あり。地理の簡
精を生ず。名けく必
方といふ。狀鳥の如く
尾長。これ陰陽變
化の生ところあり。
抱朴子小云。山中の大
樹。く語る者。樹の
語。あつた。の精の名と
雲陽といふ。其名。云々
と。則吉。今。小
述。不。行。小。因



小。論。孫。ら。ぞ。深。念。し。木。精。の。こ。ろ。こ。ろ。威。ぶ。た。し。を。や。せ。り。と。怪。く。も。つ。ら。み。あ。れ。領。主。の。威。執。を。め。り。伐。と。の。う。さ。さ。ら。せ。お。ぼ。つ。る。た。言。を。し。め。て。為。損。ト。あ。り。世。の。胡。慮。と。あ。る。の。こ。ろ。こ。ろ。罪。は。か。り。し。た。所。な。ら。ず。や。又。為。課。め。め。と。も。の。宗。あ。ら。ん。ま。ら。が。身。の。こ。ろ。こ。ま。て。か。ゆ。く。す。も。不。便。又。宗。あ。れ。よ。も。せ。先。祖。の。楠。と。の。小。仕。く。譜。代。相。傳。の。家。隸。あ。り。と。日。末。の。ひ。出。ぬ。ひ。う。か。く。む。さ。さ。さ。く。榮。利。を。計。ら。せ。と。こ。が。小。古。主。の。名。う。一。負。の。楠。を。伐。め。ら。ん。の。名。詮。自。性。の。理。と。や。ん。末。榮。か。く。も。あ。り。の。こ。ろ。智。恵。才。学。よ。も。及。ぐ。た。の。世。の。人。の。貧。福。と。あ。ひ。こ。え。時。を。初。め。ん。と。を。よ。む。女。う。め。ま。ら。げ。と。あ。ひ。と。ま。り。め。と。し。と。賢。く。も。ま。ゆ。つ。を。半。六。寸。も。果。む。改。を。ら。ち。掉。物。成。と。ひ。ら。せ。の。婦。女。子。の。生。至。ら。ん。小。一。の。人。も。天。の。あ。る。を。取。ぞ。れ。却。綱。を。受。こ。と。り。尋。常。う。て。彼。附。を。

伐。ら。ぶ。宗。を。二。票。る。と。も。あ。ら。ん。法。を。り。く。す。と。た。れ。の。怕。く。小。足。と。と。又。楠。の。古。主。の。名。氏。う。れ。伐。ら。ぶ。と。り。め。と。し。と。思。は。ら。り。世。よ。久。米。氏。は。は。る。人。の。主。の。名。氏。と。と。米。を。食。り。ぐ。や。い。め。が。い。ふ。も。身。ひ。と。の。み。ら。め。の。伐。は。身。ら。小。嫁。と。し。り。既。に。野。の。春。秋。の。狂。と。身。の。纏。縷。に。は。い。糧。と。れ。を。懶。し。と。ら。の。氣。も。と。せ。ぬ。れ。ど。が。ま。ら。づ。入。ら。ん。勝。る。ま。と。と。世。も。あ。ら。れ。ぬ。深。山。木。と。う。果。ん。ぬ。ゆ。と。を。う。ら。む。と。や。婦。伶。削。て。牛。賣。と。と。あ。め。と。ど。い。る。る。の。う。ら。ん。筋。の。牙。が。あ。る。べ。た。よ。あ。ら。ん。ど。何。れ。も。打。と。う。て。め。く。と。回。答。く。聽。納。べ。ら。い。ん。え。ざ。り。實。や。信。言。美。ま。ら。ん。ど。美。言。信。ま。ら。ず。思。は。ら。る。良。茶。の。苦。れ。を。憎。も。才。あ。る。の。亦。人。の。諫。を。預。け。ま。ら。ず。論。條。の。日。末。う。り。ど。あ。る。を。と。ら。め。が。と。う。く。も。あ。ら。ん。果。る。天。と。と。今。も。諫。う。ね。と。袖。よ。露。路。漏。る。言。の。葉。も。た。ら。ら。ぬ。と。と。を。う。り。小。さ。ひ。



典子
樹を
伐らん
請ふ

市川魚見

市川魚見

市川魚見



市川魚見

大和路
おさん
丹波路
おん
横死を
哀悼



おん七

おん一〇

おん三



おん六

おん四

